

琉球大学学術リポジトリ

沖縄県に生育するテンツキ属の形態と染色体数

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム 公開日: 2008-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉山, 巳次, 横田, 昌嗣, 傳田, 哲郎, Yokota, Masatsugu, Denda, Tetsuo メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/4949 |

沖縄県に生育するテンツキ属の形態と染色体数
Morphology and chromosome number of the genus *Fimbristylis*
inhabiting Okinawa Prefecture

杉山巳次・横田昌嗣・傳田哲郎

テンツキ属 (*Fimbristylis*) は、カヤツリグサ科 (Cyperaceae) に属する一年生あるいは多年生の植物で、世界の熱帯、亜熱帯及び暖温帯に広く分布する。奄美大島以南の琉球列島からは 5 変種、2 亜種を含む 25 分類群が報告され、そのうち 22 分類群が沖縄県に産するとされている (初島・天野 1994)。沖縄県産テンツキ属の形態に基づく分類は、Koyama (1961) や Walker (1976)、初島 (1971、1975) などにより行われているが、*F. dichotoma* 種群の分類に関しては一致を見ない。また、沖縄県産テンツキ属に関する細胞学的研究は十分に行われておらず、それらの染色体数や核型などの情報は限られている。そこで、沖縄県産テンツキ属の分類の再検討と細胞分類学的な知見の収集を目的とし、沖縄県の様々な場所から採集したテンツキ属植物の外部形態を観察するとともに、採集した植物の染色体数を調べた。

その結果、採集した植物は形態的に 16 の異なるグループに分けられ、このうちの 4 グループは既知の分類群と形態の一致しない未知の分類群であった。未知の分類群の 1 つ *F. sp 1* は、外部形態の特徴が *F. dichotoma* 種群に属する狭義のテンツキ (*F. dichotoma* var. *annua* あるいは *F. dichotoma* var. *tentsuki*) に類似したが、瘦果と花柱の大きさと形態が記述される狭義のテンツキの形態 (Ohwi 1944、Koyama 1988) と異なった。また、狭義のテンツキの既知の染色体数が $2n=20$ であるのに対し、*F. sp 1* のそれは $2n=10$ であった。よって、*F. sp 1* は狭義のテンツキではないと考えられる。従来から沖縄県に狭義のテンツキの生育を認める説 (初島 1975 など) と認めない説 (Walker 1976 など) がある。沖縄県で採集され狭義のテンツキと同定されていた標本 3 点 (RYU8436、RYU11678 と RYU27735) の形態が *F. sp 1* のそれと一致したことは、狭義のテンツキとされて来たものが *F. sp 1* の誤同定である可能性が高く、沖縄県に狭義のテンツキが生育しないという説を支持する。また、その他の未知の分類群 *F. sp 3* 及び *F. sp 4* は、その形態からそれぞれカギテンツキ (*F. schoenoides*) とコアゼテンツキ (*F. aestivalis*) であると考えられた。*F. sp 3* の染色体数は、カギテンツキの既知の染色体数 $2n=10$ と一致した。カギテンツキは、インドから台湾、オーストラリア北部に分布し、日本では初めての記録となる。コアゼテンツキは、インドから台湾、日本の本州と九州及びオーストラリア北部に分布し、沖縄県では初めての記録である。